

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所
〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田) Eメール oochirasankoku9jo@yahoo.co.jp



QRコード



209号
2024年11月28日発行

衆議院選挙結果と憲法9条

改憲勢力3分2に割れこむ



戦後もっとも短い審議で国会解散した衆議院選挙の結果は、改憲勢力（自民・公明・維新）の議席獲得阻止となり、改憲勢力が改憲発議に必要な3分2の議席を割り込みました。

自民党は9月の総裁選では、緊急事態における議員任期延長を中心に、「9条」への自衛隊明記、自衛隊を国防軍にするなど発言が旺盛でしたが、改憲派が3分2以下に割れ込むもと、「9条」に簡単に手を付けることは出来なくなりました。

大軍拡や武器輸出、沖縄南西諸島の基地化は、9条の土台を崩す「壊憲」です。これまで改憲派が3分2の議席を持つもとも、「九条の会」など国民の改憲を許さない運動と立憲野党の力で改憲を阻止してきました。今後も油断はできません。改憲発議させない運動を、そして「9条」を活かした平和を創っていくために、引き続き頑張りましょう。

平和に生きる社会を願って ～戦争と平和の歴史から学ぶ～

11月2日、宇都宮大学国際学部教授清水奈名子先生を迎え、ふるさとふれあい館（大平町）にて講演会を開催しました。

二度の世界大戦の歴史から、「戦争と人権、平和と人権、戦争の非人間化、戦争ではなく平和の準備をするために市民の役割とは何か。」4つの視点でお話されました。



講演する、清水奈名子先生

講演を聴いて胸が熱くなった。身近に貧困に苦しむ高齢者の話をきく。不登校の児童生徒が増え、先生たちも精神的な病が増えている。戦争があちこちで起きている。軍拡が進んでブレーキが利かない。グローバルといいながらクルト人在日朝鮮人への差別が広がっている。そんな現実のなかで、なにをどうすることもできないでいる自分がある。今日のお話は、清水先生の心、人権意識、弱者への共感を伺い、とても信頼できる同じ立場を感じた。

久しぶりに、いい講演を聴かせていただきました。これからの生き方が少しでも未来の社会がよくなるように生活したいです。

平和学という言葉は初めて聞いてとても勉強になりました。いろいろな考え方を理論的に考えることの大切さをあらためて知りました。

毎日のように、軍事費や軍事力の強化がメディアから流れてくる。戦争しないために私たちは何ができるか。やはり9条変えてはいけません！



映画「モルゲン、明日」を観て

～原発稼働ゼロ！実現したドイツ市民の運動～



ドイツは、福島第一原発の事故から3か月後の2011年6月、当時のメルケル政権はすべての原発を廃炉にすることを決め、そして2023年原発稼働ゼロを実現した。このドイツの歴史、その課程を映像化した映画「モルゲン、明日」が小山市中央公民館で上映されることを知り、9月29日観てきました。

この上映会は、「さよなら原発！栃木アクション」2024プレ企画として、小山市はじめ7会場で上映されました。

坂田雅子監督は「すべての原発を廃炉に決めたドイツ、一方日本では福島原発の収束の糸口が見えないまま再稼働が始まり、原発輸出の話さえ出ている。両国の違いはどこから来るのだろう・・・」答えを求めてドイツへ向かったと語りだします。

都市や村、学校での環境保護に向けた人々の実践が次々に紹介されている映像に「驚きました！」それは、ドイツ最大の環境先進都市フライブルグです。このフライブルグ市へ、福島第一原発事故が起こった2年前の2009年に、自治労連の仕事で環境問題の視察に訪れたところだったからです。

(下に当時の報告レポートから一部を紹介します)

フライブルグ市の環境政策は

交通政策、エコ住宅、環境教育、小型水力発電、エネルギー自給村の風力、廃棄物、糞尿バイオなど、フライブルグの環境保全対策は広範囲に多角的に進められ、環境に対しての住民意識も非常に高く、行政と住民・企業が一体で環境対策に取り組んでいます。また、環境NGO市民団体も多数あります。

歴史的背景、1970年代酸性雨によって、ブナが多く生息する全長200kmの黒い森(シュヴァルトツヴァルト)が枯死の危機となりました。また、市から20km離れたヴィールに、原子力発電所建設計画が持ち上がり、学生や一般

市民らの原発反対運動が大きく沸き起こり、これらがきっかけとなって原発だけでなく環境全般への意識が高まっていきました。

エネルギー政策 早くから原発脱却を目指したフライブルグ市は、1986年、市民と700人もいるエコ研究者が構成メンバーとなり、エネルギーコンセプトを作成し、これを市議会



で決議し、省エネ・エネルギーの有効利用・自然エネルギーの具体化が進められています。省エネのパッシブ

ハウス(無暖房住宅)はパッシブハウス(無暖房住宅)三重の断熱ガラス、太陽熱温水器や太陽光電の利用で、消費よりエネルギーを生み出しています。

交通政策 大気汚染やCO2排出などの問題から、市街地への自動車乗り入れ禁止に踏み切り、市営交通の路面電車とバスの全路線が共通して使える「地域環境定期券」が導入。路面電車は、住宅地から500m圏内に駅が設置され、子どもやお年寄り、障害者の人たちが安心・安全に乗車できるように段差がありません。乗り換え自由な交通政策は、市民の間に、公共交通機関を利用したほうが便利で安いことが理解されています。



路面電車

エコステーション(環境センター) 大人から子どもまで様々な環境教育が用意され、教師のためにも講座やワークショップが開かれています。子どもの時から自然保護への関心や環境への意識が作られています。

映画を観て、あらためて原発稼働ゼロ！実現は、日本のように乱開発を許さない、自然と調和した環境保全を、市民の参加型の運動によって守られ、発展し現在に至ったのだと確信し感動しました。 大森八重子(記)

スタンディング

12月9日(月)市役所前

19日(木)カワチ薬品前交差点

両日午後3時～